

生体構造機能・病態解析学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 山口明彦 yama@hoku-iryo-u.ac.jp、西出真也、井上恒志郎

【概要】

筋骨格や脳など組織は可塑性を有しており、種々の疾患の発症や加齢に伴う変化、また身体運動レベルや内部・外部環境の変化に伴い、質的適応変化を示す。本講義では、これらの組織適応性の基盤となる生体調節機構について最新の知見を調査し、筋骨格、脳機能を中心とした身体組織の可塑性および適応性の仕組みを自ら探求する能力を身につける。

【学修目標】

生体調節機構について最新の知見を知り、身体組織の可塑性および適応性の仕組みを自ら探求する能力を身につける。

1. 筋骨格、脳機能を中心とした身体組織の可塑性および適応性の仕組みを説明できる。
2. 身体組織の可塑性・適応性の仕組みについて、未解明の課題を明らかにし、その課題の解決方法を提示できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	基礎研究リテラシーの獲得	生命科学分野・身体運動科学分野における最新の研究知見について、原著科学論文を中心に調査・検討し、ディスカッションを行う。	山口明彦 西出真也 井上恒志郎
15			

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

毎回の講義における担当課題の発表内容を評価する。（課題発表100%）

課題発表時に内容についてフィードバックを行う。

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

必要に応じて提示する

【学修の準備】

授業の前後に関連諸分野の文献等を各自調査、抄読、発表準備をすること。（予習120分・復習120分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目は、リハビリテーション領域において学際的視点を活かしながら先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけている、研究成果を国際的な水準で学術的に発信し国内外におけるリハビリテーション科学の発展に寄与できる能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。